

日本腹膜播種治療トレーニング プログラム

Japanese School of Peritoneal Surface Oncology

And

Japanese Peritoneal Surface Oncology Training

Program

A Joint Venture of

Peritoneal Surface Oncology Group International

European Peritoneal Surface Oncology Training

Program

Web Site:

[ESPSO](#)

[10th International Congress on Peritoneal Surface Malignancies - Faculty](#)

目的

- 1) 腹膜播種に関する基礎的・臨床的知識の習得
- 2) エビデンスに基づいた腹膜播種の包括的治療の習得

Peritoneal Surface Oncology とは

腹膜播種の発生機構を分子生物学的あるいは病理学的に研究するとともに、その診断方法や治療法を開発する分野である。

対象疾患

腹膜播種を有する疾患と、播種はないが細胞診陽性例

胃癌・大腸癌・虫垂癌・卵巣癌・腹膜偽粘液腫・子宮癌・膵癌・胆管癌・胆嚢癌・肝臓癌からの腹膜播種・原発性腹膜癌・腹膜中皮腫・のう胞性中皮腫・顆粒細胞腫・肉腫などを対象とする。

背景

Peritoneal Surface Oncology Group International (PSOGI)と European Society of Surgical Oncology (ESSO)が後援する European School of Peritoneal Surface Oncology (ESPSO)が 2013 年に設立された。JSPSO は PSOGI と ESPSO の支部として 2016 年 9 月 1 日に開校する。

近年、腹膜播種にたいし腹膜播種をすべて切除する外科手術と周術期腹腔内化学療法を組み合わせた包括的治療が開発された。従来は不治の病と考えられてきた腹膜播種が、この包括的治療により目を見張るばかりの治療成績の改善が得られるようになった。この包括的治療を安全にかつ高い治癒率をめざして行なうためには、外科腫瘍学・解剖学・生理学・病理学・化学療法・外科手術手技（外科・婦人科・泌尿器科領域）・術後管理における豊富な知識と経験が必要である。しかしながら、従来から行なわれてきた外科トレーニングのみでこの治療を行なうと患者にかかるリスクが高いと考えられている。

そこで、この包括的治療を初心者が修得できるようにするために 2016 年 9 月 1 日から JSPSO が開校する。その後援を行なう PSOGI は腹膜播種の治療で世界を牽引するグループであり、腹膜播種の国際規約分類・データ解析・新しい治療法の開発を行なってきた。また、1998 年から 2 年おきに国際学会を開催し、包括的治療の普及に貢献してきた。

JSPSO の機構と指導医

JSPSO の代表は米村豊(Mail: y.yonemura@coda.ocn.ne.jp)である。

委員会とそのメンバー

研修内容の作成・指導医の選択・認定・その他をおこなう。

メンバーは PSOGI の幹事と日本の委員数名である。

片山寛次、石橋治昭、水本明良、左古昌蔵、藤村隆、鍛利幸、遠藤良夫、村田聡（日本）、Paul H Sugarbaker (USA), Emel Canbay (Turkey), Brendan Moran (UK), Marcello Deraco (Italy), Santiago Moreno-Gonzalez (Spain), Haile Mahtem (Sweden), Pompiliu Piso (Germany), David L Morris (Australia), Frans A.N. Zoetmulder (the Netherland), Oliver Glehen (France), Beate Rau (Germany), François Gilly (France), Yan Li (China), Dominique Elias (France), David Bartlett (USA), Vic Verwaal (Denmark), Kurt van del Speeten (Belgium), Mao-Chi Shier (Taiwan)

活動

JSPSO は研修希望者にたいし腹膜播種に関する基礎的・臨床的トレーニングを行なう。終了後は研修者には卒業修了書が与えられる。

研修者はカンファレンスに参加し、患者のプレゼンテーションをおこない、手術適応・治療法の選択などを学ぶ。また、多数の治療経験のある high volume center で腹膜切除と温熱化学療法に参加し、術後管理も習得する。

習得する内容

- 1) 術前審査腹腔鏡と腹膜播種係数の診断・腹腔鏡下温熱化学療法の方法。
- 2) 術前化学療法特に術前・腹腔内・全身化学療法・腹腔ポート挿入法・副作用対策
- 3) 手術適応・除外症例
- 4) 腹膜切除の手順・腹腔内洗浄療法
- 5) 術中温熱化学療法の方法と副作用対策
- 6) 術後早期腹腔内化学療法
- 7) 切除標本の切り出し方法。病理診断と疾患別の免疫パネル。腹膜播種特異遺伝子
- 8) 術後管理の方法
- 9) 術後化学療法とフォローアップ法
- 10) 統計処理の方法
- 11) 学会発表・論文作成・プロトコール作成と倫理委員会への提出などを研修する。

研修者の経験年数や技量にもよるが、60~130 例以上の手術に参加する必要がある。

2 年に一回開催されている国際学会 Peritoneal Surface Oncology Group International か、年 1 回行なわれる日本ハイパーサーミア学会の温熱療法トレーニング コースに参加する。

また、学会発表や審査が行なわれる英文論文を投稿する。この論文が卒業論文となる。

また、PSOGI の幹事の海外の施設での短期研修も行なうことができる。

経費

使用する教科書に必要な経費（1 万円前後）が必要である。研修中は 8 時間で 7 万円の給与が支給される。

研修資格

日本の医師免許を有し、腹膜播種の治療に興味がある医師。卒後初期研修を終了した医師。外科医・産婦人科医・麻酔医・画像診断医など。

外国人医師であっても研修病院が厚生省からの研修許可病院であれば研修可能である。

研修期間

6 ヶ月-3 年間。研修者の希望と立場により変更可能（週 2 日なども可能）。

研修方法

経験豊富な指導医が直接指導に当たる。指導内容は術前診断・患者選択と手術適応・周術期化学療法・術後管理・術後フォローアップ・病理診断・学会発表・論文の作成などである。指導医は研修者が完全に上記のことが終了するまで責任を持って指導に当たる。

研修病院

福井大学医学部附属病院がん診療推進センター

三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科学

岸和田徳洲会病院・腹膜播種センター

草津総合病院・腹膜播種センター

滋賀医科大学・腫瘍センター

岸和田市民病院・外科

これら病院は外国人医師が臨床研修に関わる医師法第 17 条などの特例に関する法律（昭和 62 年法律第 29 号）第 2 条第 4 号の規定による臨床研修を行なう病院として厚生労働省から認定されている。

卒業証明

JSPSO から終了証明が研修修了者に与えられる。

申し込み先

米村 豊：y.yonemura@coda.ocn.ne.jp